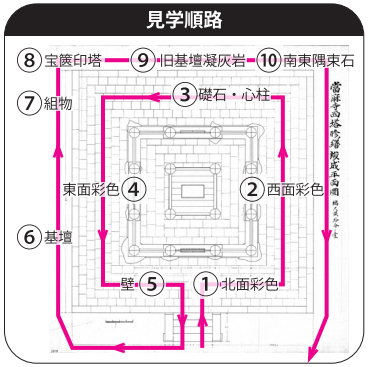
国宝当麻寺西塔 修理工事現場公開



初重内部彩色

初重内部の彩色は、心柱を囲む覆板と楣（まぐさ）（四天柱上部を繋ぐ横木）、柱の一部に確認されました。顔料の剥落が著しいことから平成 29、30 年度に彩色調査と剥落止めの処置をおこなっています。引き続き彩色調査をすすめ白描（墨線画）を作成する予定です。

北面

北面は 2 枚の板それぞれに浄土変相図が描かれていたとみられますが、現在は下地の白色顔料と宝殿の屋根のみ確認できます。

西面

西面は浄土変相図が描かれています。上部に如来形の尊像を中心に左右に三尊が描かれ、頭上に天蓋と思しきものが確認できます。その下部に幾体かの人物像と思しきものもありますが、詳細は不明です。

楣（まぐさ）

楣には平安後期とみられる宝相華文様が描かれていました。繧繝（うんげん）による極彩色であったと考えられますが、現在は風食痕を残すのみとなっています。

南東隅四天柱

南東隅四天柱には近世とみられる梵字と金襴巻（きんらんまき）が描かれていました。

南面

南面は他の 3 面の材より新しく、中央の板のみ彩色がありますが、上部にわずかに木瓜渦様の痕跡があるのみです。

東面

東面は全面に千仏が描かれています。部分的には尊像や光背の形がわかるところもありますが、顔の表情など詳細を確認することはできません。

壁

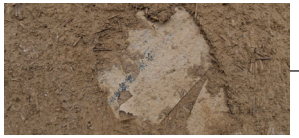
壁は骨材となる下地に性質の異なる土を重ね、漆喰（しっくい）で仕上げています。初重は面積が広く、大正修理では強度を保つため土の層を増やしたり、筋交いや貫（ぬき）を入れる工夫がされていました。筋交いや貫を入れた箇所は他より壁が薄くなるため反古（ほご）紙を入れて強化していました。

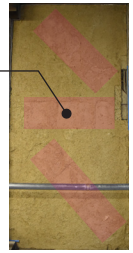
小舞（こまい）　竹と木の格子に藁縄を巻き付けた下地

荒壁（あらかべ）　粘りの強い荒土に長めの苆（すさ）をまぜたもの

中塗り　粘りの弱い土（梨目（なしめ）土）に 30 ㎜程度の苆を混ぜたもの

上塗り　石灰と苆と海藻のりを混ぜたもの（漆喰）



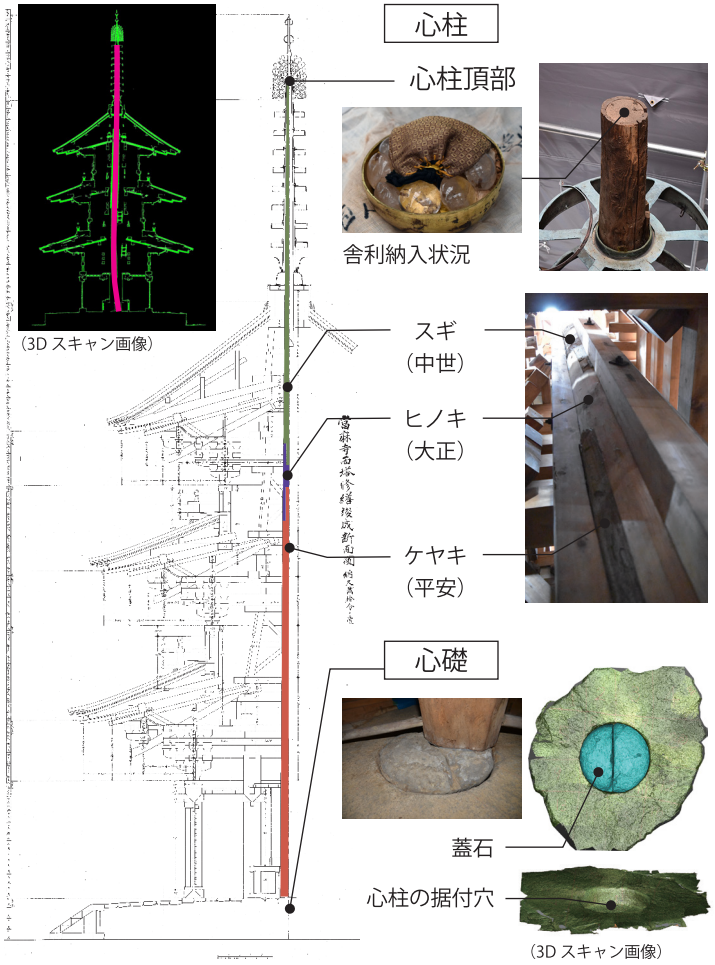


下貼りの反古紙

大正修理現場にあったメモや書き損じの書類が使われていました。

心柱・心礎

心柱は大正修理で２丁継から３丁継に変更され、心礎の西寄りに立っていました。初重から確認できるのは平安時代のケヤキ材です。足元は不整八角形に整形しており全体は西に湾曲しています。最上部は中世のスギ材で頂部には舎利容器が納入されていました。



心礎は直径約 2m の石英閃緑岩で、葛城市太田付近のものと思われます。中央には心柱の据付穴がありましたが舎利容器を納める孔はなく、現在は凝灰岩でできた２つの蓋石で埋められています。

新知見と西塔

西塔再建説

建築史家の足立康は、心柱と心礎の形状が一致しないことから、現在の西塔は再建されたものであるという説を唱えていました（「当麻寺西塔に関する疑い」1933）。

平成 12 年防災設備工事に伴う調査

発掘調査で基壇周辺より當麻寺創建期の軒丸瓦が出土しています。また測量により金堂・講堂を中心とする伽藍中軸線に従うと曼荼羅堂と西塔が同じ軸線上にのることが判明しています。足立説の有利が指摘されました。

白鳳期の名残をとどめる西塔

今回の調査による新知見

舎利容器は、金銅、銀、金の３つの容器が入れ子状に納められたもので、奈良国立博物館の内藤栄氏の調査でいずれも 690 年頃の制作であると推定されました。

水煙は、忍冬唐草文と未敷蓮華文を組み合わせた意匠で飛鳥時代に類例がみられます。蛍光 X 線分析より表面に金が残っていることがわかりました。

基壇周辺出土瓦には、平成 12 年発掘調査と同じ當麻寺創建期の複弁蓮華文軒丸瓦が含まれていました。

白鳳期（飛鳥後期）に西塔が存在した可能性を示しています。

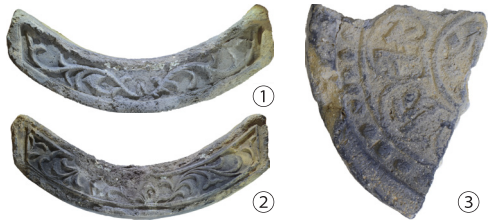
平安期の西塔

現在の西塔の建立年代は、三手先組物の様式が、当麻寺東塔（奈良時代）と醍醐寺五重塔（京都府・平安中期）の間に位置するなどの理由から、平安前期と考えられていました。

今回の調査による新知見

組物の様式・技法を再検討した結果、初重は平安前期、二・三重は平安後期と推定されました。

軒平瓦①・②は西塔に使用されていた最古の瓦で、平安後期と推定されます。**軒丸瓦**③は梵字文で、基壇及び基壇周辺より一定数出土しています。また、②・③は當麻寺の前身の可能性が指摘されている只塚廃寺（葛城市）からも出土しており、対になると考えられます。



初重内部の楣の彩色文様は平安後期の類例に近く、同時期のものと考えられました。

現在の西塔は平安後期の姿を概ねとどめているとみられます。

国宝当麻寺西塔
修理工事現場公開

発　　行　奈良県地域振興部文化財保存課・文化財保存事務所
〒630-8501　奈良県奈良市登大路町 30
電　　話　0742-27-9865
F　A　X　0742-27-5386
ホームページ　http://www.pref.nara.jp/1700.htm
発 行 日　令和２年２月 29 日